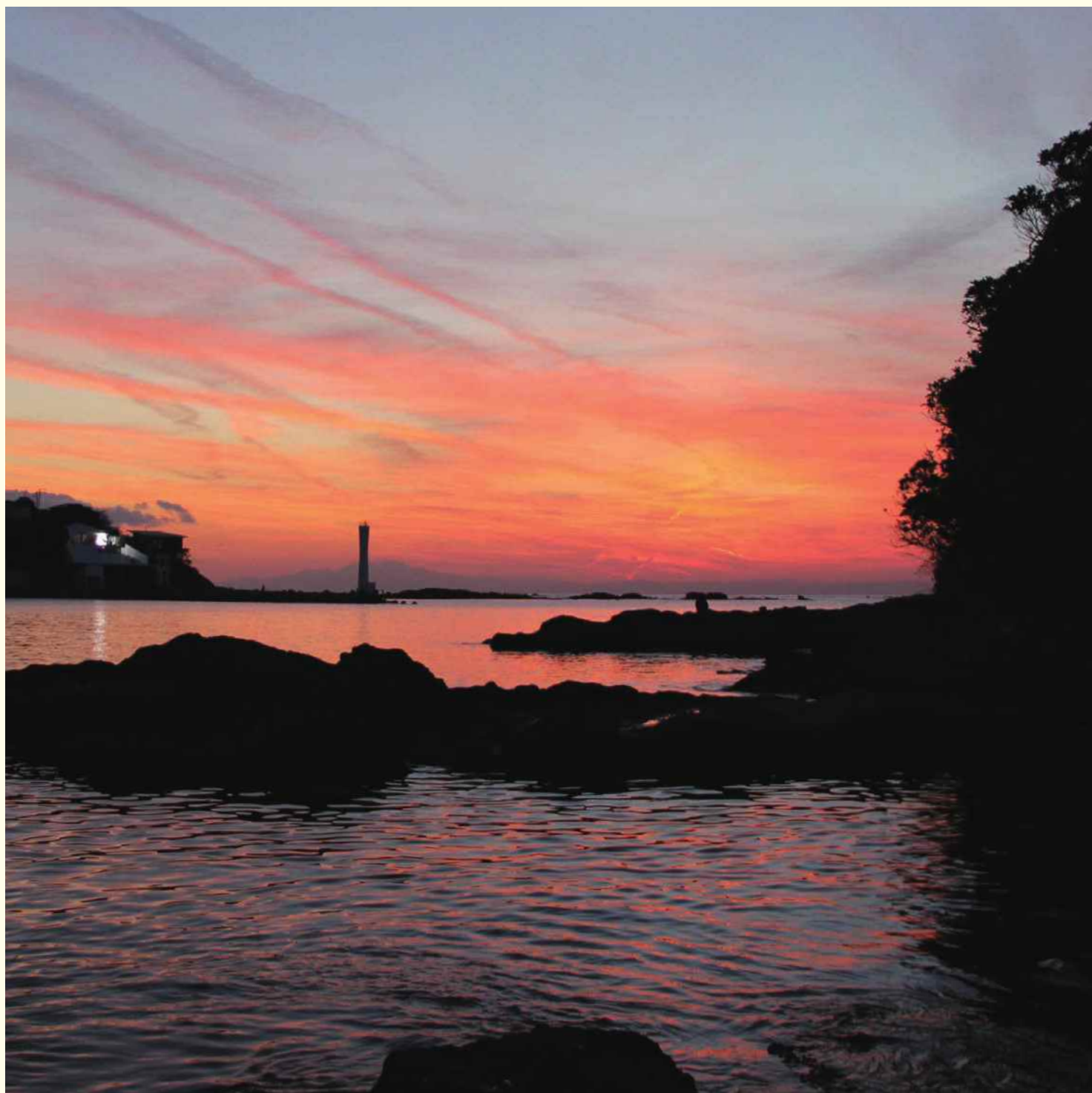


学内広報

2017.2.22

no.1492



夕刻の三崎臨海実験所にて(1月28日)。

三崎周辺は「生物学の
宝庫」なんだって!



 東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

FIFA会長とミラン&クロアチアの元10番も祝福に来学

日本サッカー協会との連携がスタート

第12回プレジデント・カOUNシルダイジェスト

世界の15賢人による 東京大学への39の提言

FIFA会長とミラン&クロアチアの元10番も祝福に来学

日本サッカー協会との連携が Kick-off!

昨年12月16日、東京大学と日本サッカー協会（JFA）は、スポーツ医科学研究の推進などに関する連携協定に調印、記者会見と記念式典を安田講堂にて開催しました。JFAの現会長と元会長、スポーツ庁長官、国際サッカー連盟（FIFA）会長、そして往年のスター選手までもが本郷キャンパスに集結するなか、連携開始のホイッスルが響き渡りました。これまで深い関係を持ってきた東大と日本サッカー。これから始まるパス交換とそこからのゴールに注目です。



田嶋幸三さん
JFA会長
古河電工と日本代表でFWとして活躍後、ドイツに渡って指導者の道へ。2015年よりFIFA理事。2016年より第14代JFA会長。

五神真
総長
2015年に就任後、スポーツが持つ力に覚醒中。式典の講演ではクラブW杯決勝の鹿島の試合が楽しめたというコメントも。



境田正樹
理事



鈴木大地さん
スポーツ庁長官



川淵三郎さん
JFA最高顧問



大澤英雄さん
日本サッカー指導者協会理事長



浅見俊雄さん
日本サッカー殿堂掲額者



ズボニミル・ボバンさん
FIFA事務総長代理



ジャンニ・インファンティノさん
FIFA会長



鈴木寛
公共政策学連携研究部教授
・JFA理事

①弁護士時代、日本フェンシング協会の補助金問題、バスケットボールのリーグ分裂問題など、スポーツ界の問題解決に取り組む。今連携の実現に尽力。②就任時の「泳ぎは後ろ向きでしたが、前向きに」との言葉が印象的だった長官は開会の挨拶に登壇。③Jリーグ初代チェアマン、第10代JFA会長としてはもちろん、Bリーグ設立でも活躍。挨拶では老後も健康でいることの大事さをマイクなしで強調。④国士舘大学サッカー部監督、全日本大学サッカー連盟理事長、国士舘大学学長などを歴任し、現在は日本サッカー指導者協会と学校法人国士舘の理事長として活躍。⑤国際審判員として国内外で20年以上活躍後、JFA審判委員長としてサッカー界に貢献。東大ア式蹴球部では主将として、1967年からは監督としても活躍した本学名誉教授。⑥クロアチア代表とACミランの10番として活躍。チェス好き。聴衆からAIとサッカーについて聞かれ、「AIより選手の知性を信じる」と答えました。⑦UEFA（欧州サッカー連盟）から2016年に第9代FIFA会長に。スイス出身。挨拶では、「最初の調査」と題してクラブW杯決勝の結果を聴衆に訊ね、「鹿島が勝つだろう」と予想しました。⑧2014年、東大と慶大の教授に同時就任（クロスアポイントメント）。JFA理事のほか日本音楽著作権協会の理事としても活動中。

健全な精神は健全な肉体に宿るべし

番外「Jリーグを狙う東大発のクラブがある！」その名は「東京ユナイテッドFC」東大ア式蹴球部の福田雅監督（イベント委員会担当）が共同代表を務める関東リーグ1部のクラブ。元日本代表の岩政大樹選手を加え、23区内のJクラブという夢に向かって奮進中です！

「日本サッカーと東大」十大トピックス

天皇杯を3回も制覇！

天皇杯全日本サッカー選手権大会は、日本のカップ戦の最高峰です。96回の歴史を誇るこの大会で、1931年の第11回、1946年の第26回、1949年の第29回と、3度も栄冠に輝いているのが東大（1925年の第5回は準優勝）。これはジュビロ磐田や名古屋グランパスをも凌駕する回数です。

OB12人がサッカー殿堂入り！

日本サッカーの発展に尽力した功労者を讃える「サッカー殿堂」。73人いる掲額者のなかで東大出身者は12人にのびます。さらに、唯一チームとして掲額されている1936年ベルリン五輪日本代表チームのうち、4人は東大出身です。その功績は日本サッカーミュージアムで確認できます。

OB4人が「ベルリンの奇跡」に貢献！

ベルリン五輪で、優勝候補だったスウェーデン代表を相手に、五輪初出場の日本代表が0-2からの逆転勝利をおさめた一戦は、「ベルリンの奇跡」として語り継がれています。種田孝一さん、竹内悌三さんは先発として、竹腰重丸さん、高橋豊二さんは控えとしてこの勝利に貢献しました。

国際タイトル初獲得の主力に！

サッカー日本代表が初めて獲得した国際タイトルは1930年に明治神宮外苑競技場で行われた第9回極東選手権。チームの主力は19名中12名にも及ぶ東大勢で、主将も東大の竹腰重丸さんでした。当時の最強チーム・中国との決勝戦は3-3のドロー。協議の結果、両者優勝となりました。

関東大学リーグ6連覇！

関東大学サッカーリーグ戦ではこれまでに9回も優勝しており、そのうち1926年から1931年までは怒濤の6連覇を達成しています。26回とぶっちぎりの最多優勝回数を誇る早稲田大学でも連覇となると4連覇が最高（他に慶應義塾大学と専修大学も4連覇の経験あり）。不滅の金字塔です。

JFA会長を4人輩出！

初代会長の今村次吉さん（法学部）を筆頭に、4代会長の野津謙さん（医学部）、5代会長の平井富三郎さん（法学部）、9代会長の岡野俊一郎さん（文学部）の4人が日本サッカー協会会長として活躍しました。これは出身大学別で見ると最多の数字です（2位は早稲田と慶應の各2人）。

日本代表監督を2人輩出！

ハリルホジッチ監督の大先輩にあたるのが、竹腰重丸さんと岡野俊一郎さんです。竹腰さんは1951年に代表監督に就任。後に東大教養学部の教授も務めました。岡野さんは1970年に代表監督となり、後にIOCでも活躍。2月の逝去の折には国内外のスポーツ人から弔辞が寄せられました。

検見川が日本代表の合宿地に！

1964年の東京五輪に向け、日本代表が1年間に及ぶ強化合宿を行ったのが、検見川総合運動場でした。その後も、福島でのJヴィレッジができるまでは日本代表の合宿地といえば検見川が定番。日本サッカー史上に燦然と輝くメキシコ五輪の銅メダルももちろんここでの練習の賜物でした。

Jリーガーを2人輩出！

東大OB初のJリーガーとしてJ2のファジアーノ岡山でプレーするのが久木田紳吾選手（ファジアーノの木村正明社長も東大OB）。そして久木田選手に続いたのが、J3の藤枝MYFCに2015年から所属する添田隆司選手。都民の東大人は岡山vs町田・東京V、藤枝vsFC東京U23に注目を！

サムライブルーの由来に!?

単独チームが日本代表を務めていた昔、シャツの色はその都度違いました。選手を複数チームから選抜するようになったのは先述の第9回極東選手権から。東大勢が主力のため、淡青色のシャツを着て臨んだ日本代表は見事初戴冠。以降、日本代表のシャツは青になりました（一時除く）。文献がなく断定はできませんが、サムライブルーの源流に東大の淡青色があることは確かです。

広報課員の式典振り返りトーク

T（特任専門員A・サッカー好き）●いやー、サッカー界のレジェンドを安田講堂で見られるとは！ 会場でフルバツカって叫びたかったけど、我慢したよ。

H（主任B・それほどサッカーに興味なし）●ん？ フルバツカ？ フルボッコ？

T●「俺たちは母国をフルバツカと呼ぶ、覚えとけジャバニーズ」とドイツW杯の日本対クロアチア戦後に酒を酌み交わしたクロアチアサポが教えてくれたんだ。もちろん「俺たちは母国をニッポンと呼ぶ、覚えとけクロアチアン」と返してやったもね！

H●おじさんの思い出話はさておき、ポバンさんはイケメンでしたね♡

T●昔は「角度限定ブラッド・ピット」だった。でも生ポバンさんは正直言ってブラビより上だった！

H●クロアチアのスターだったんですね。

T●大英雄よ！ フランスW杯ではチームを3位に導き、ACミランではリーグ優勝4回とチャンピオンズリーグ優勝にも貢献したよ。さらに有名なのは、クロアチアが独立する前の1990年ユーゴスラビア国内リーグ、ディナモ・ザグレブ対レッドスター・ベオグラード戦。暴動が起り、警官隊がディナモサポーターに催涙弾を撃つなか、警官に飛び蹴りし、9ヶ月の出場停止処分を受けてイタリアW杯を棒に振ったんだ。キャリアを犠牲にしてもサポーターを守ろうとした伝説の飛び蹴りと言われたよ。ディナモはクロアチア、レッドスターはセルビアのチーム。民族間の根深い対立の構図が背景にあって……。

H●今回の講演で「政治とサッカーを分けることはできない」「過去25年間クロアチアは戦争で悲惨な時期を過ごしたが、今は敵方ともより近い関係を持ち互いに尊敬しあえるようになりつつある」「政治家もサッカーやスポーツがいかに重要なかを理解しなければいけない」などとポバンさんが話したのは、そんな経緯があったからなんですね。

T●ちなみにディナモ・ザグレブはあの三浦知良選手が一時在籍したクラブでもあるよ。そしてポバンさんがミランで10番をつけた当時の監督は、日本代表監督だったアルベルト・ザッケローニさんだ。ミランの現10番である本田圭佑選手については、解説者時代に10番タイプではないと評したこともあるね。

H●ふーん。ポバンさん、今回の肩書きはFIFAの事務総長代理となっていましたね。

T●FIFA副事務総長としてサッカーの普及と大会運営の部門を担っているとのこと。ちなみに今のFIFA事務総長はセネガル人のファトマ・サムラさん。サッカー界では無名だけど、長く国連で人権問題に取り組んできた方で、組織改革に燃えるインファンティノ会長が女性初の事務総長として抜擢したんだ。

H●東大が掲げる人類社会への貢献というテーマはサッカー界も重視している、ということですね。

T●そんな意味でもこの提携には期待大なのです！



参考図書…『東京大学のサッカー』

関魂90年の軌跡（東京大学ア式蹴球部90年記念誌）編集委員長は左ページ●の浅見俊雄先生！



世界の15賢人による 東京大学への39の提言

第12回「プレジデント・カウンスル」ダイジェスト

プレジデント・カウンスルとは?

世界各国から招聘した識者をメンバーとする、総長の諮問委員会。2004年の法人化以降、より一層の国際的地位向上を迫られる中、東大の進むべき方向性を議論し運営に活かすため誕生しました。2006年11月の発足以降、年1~2回の頻度で開催され、今回で12回目。メンバーには現在17カ国25人の有力企業人、学識経験者、国際機関関係者などが名を連ねています。



今回参加したカウンスルメンバーの顔ぶれ



11月25日、伊藤国際学術研究センターにおいて、第12回プレジデント・カウンスルが開催されました。今回は15名のメンバーが参加し、五神総長や役員と意見交換を行いました。五神総長によるプレゼンテーション“The University of Tokyo in a Changing World”で幕を開けた会では、東大が国際社会で果たすべき役割や、産学協創の国際的拡充などについて、活発な議論が飛び交いました。ここでは、議論のなかで発せられた東大に対する多くの提言のなかからごく一部を抽出してお届けします。はたして、東大の進むべき方向性とは?

●第12回プレジデント・カウンスル プログラム

9:30	開会・プレゼンテーション 「変化する世界と東京大学—その使命・改革・課題」 総長 五神真
9:45	議題1：国際社会に対し、東京大学が果たすべき貢献とは？
11:15	議題2：東京大学が産学協働を世界規模で展開するには？
13:30	「大学院教育の改革」 執行役・副学長 小関敏彦
13:45	「社会・人文分野での取り組み」 経済学研究科副研究科長 松井彰彦
14:40	「理学・工学分野での取り組み」 理学系研究科副研究科長 山内薫
15:20	議題3：世界で活躍できる人材をどのように育成すべきか？ 大学院教育の国際化戦略とは？
16:45	まとめ

- ①チュラボン王女殿下 (🇹🇹 タイ王国第三王女殿下 / チュラボン研究所所長) ②リタ・コルウェル氏 (🇺🇸 メリーランド大学、ジョンズ・ホプキンス大学特別荣誉教授)
- ③ルシアーノ・コウチーニョ氏 (🇧🇷 カンピーナス大学正教授) ④ビル・エモット氏 (🇬🇧 著述家 / コンサルタント) ⑤ビクター・フォン氏 (🇸🇰 フォングループ会長) ⑥フレデリック・ヒルマー氏 (🇩🇪 ニューサウスウェールズ大学名誉学長) ⑦ハッサン・ジャミール氏 (🇸🇦 アブドゥルラティフジャミール社副社長) ⑧小宮山宏氏 (🇯🇵 三菱総合研究所理事長 / 東京大学第28代総長) ⑨黒川清氏 (🇯🇵 政策研究大学院大学客員教授)
- ⑩ステファン・ノレーン氏 (🇸🇪 元駐日大使) ⑪ベール・ヌーデル氏 (🇸🇪 元財務大臣) ⑫カリ・オラビ・レイビオ氏 (🇫🇮 ヘルシンキ大学名誉学長) ⑬許智宏氏 (🇨🇳 元北京大学学長) ⑭ハイメ・オグスト・ゾベル・デ・アヤラ氏 (🇨🇷 アヤラコーポレーション最高経営責任者) ⑮吉野洋太郎氏 (🇯🇵 ハーバード大学ビジネススクール名誉教授)



東京大学は…●

39 提言の概要 (番号は発言者を示す)

- 機関同士が国を越えて協力し問題解決にあたるべき。①
- どんな人生を送りたいか、世界に何が貢献できるかを考える場であるべき。⑮
- 重要な社会的・政治的課題に取り組むよう学生と教職員に促すべき。⑮
- 世界的な問題は大学単体では解決できないので、協働の方法を考えるべき。⑬
- 課題解決の研究のみでなく、大発見につながりうる基礎研究も大事にすべき。②
- 未来社会に関する研究所を設立すべき。⑧
- 知が分散する時代に表現と研究の自由の砦として機能すべき。④
- 女子学生を増やすとともに、学术界でより多くの女性の活躍を推進すべき。②
- 予算・人員など継続的連携を支える仕組みの整備を。⑥
- 広報を通じ、産業との連携が評価される風土を醸成すべき。⑥
- 産業に扉を開く良いビジネススクールのように、オープンな環境を作るべき。⑥
- 教育と研究だけでなく「イノベーション」も重視すべき。⑤
- まず国内の多国籍企業と適切な部局や研究室を繋げ、後に海外に展開すべき。⑦
- 大学は金を使い知を生むが、産業は知を使い金を生むという差異を意識すべき。⑫
- 複数分野に通じた「T型人才」を育成すべき。②
- 社会に出る「訓練」でなく、人間の「教育」として、倫理に触れる機会の提供を。⑥
- 本質的評価のためのスキル修得の場を提供すべき。⑫
- 政府にアドバイスをを行い、科学的事実に基づいた政策決定の支援を。⑫
- 総長が日本の代表としてこれから進むべき道を明らかにすべき。⑪
- 学生調査で既存プログラムの妥当性を再検討し、
- 知の創造と共有の拠点から問題解決の拠点へと歩みを進めるべき。⑦
- 倫理教育、学部教育、社会の支持が得られる教育を。⑬
- 領域横断のプロジェクトを推進すべき。⑪
- 社会に対する最大の貢献は研究であり、気候変動等の分野でも重要な役割を担うべき。⑩
- 投資機関が注目する国際研究プロジェクトで積極的な活動を。⑫
- SDGs^{*}達成のため、排除ではなく包摂を進め、産業を非営利の活動に巻き込むべき。③
- 喫緊の課題である気候変動問題の解決に向けて複数分野の知を統合すべき。③
- 高齢化が加速する日本のシルバーマーケットでチャンスをつかむべき。⑤
- 保護貿易主義が強まるなか経済学部が貢献を。⑭
- 社会的意義のあるプロジェクト(スポーツ科学等)を通じ、協働のための生態系を構築すべき。③
- 学生はもちろん教職員の交換プログラムも増やすべき。⑨
- グローバル化やアントレプレナーシップの知見を民間と共有すべき。⑪
- イノベーションを起こし、民間も積極的に関わりたいと思うようにすべき。⑤
- MITとランボルギーニのように様々なレベルの交流プログラムを用意すべき。⑦
- 大学院プログラムを拡張すべき。②
- 企業経営や公的サービスにつながる教育の強化を。⑮
- 専門化は科学の要素のひとつだが、その知識の実践・応用についても教えるべき。③
- 学生を学際的なプロジェクトに参加させ、責任を与えるべき。④
- 大学改革についての議論に学生も参加すべき。⑦
- 世界における公的機関や市場のあり方が急変する今、学生の要望や行動を調査すべき。⑤

アクション・プラン 東京大学は…

1. 「指定国立大学法人」として認定を受ける。
2. 次回の会議における女性メンバーを増やし、学生・教職員の男女比を是正化するために一層の努力を行う。
3. イノベーションと共同学習を加速するため、民間部門との接点を増やす方策について検討する。
4. よりよいコミュニケーション戦略を策定し、自分たちの活動について世界に知らせるチャンネルを発掘し、既存の連携先の活用、新しい連携先の開拓によって、緊急性の高い問題を解決する。
5. 学生に国際的な挑戦の機会を提供することで、彼らを支援し、将来、世界で出会うさまざまな課題に立ち向かえるよう、さらに教育に力を入れる。

東京大学は問題解決の拠点へ

今回のプレジデント・カウンスルは、世界各国でのテロやイギリスのEU離脱、トランプ大統領の誕生など、国際社会が大きく揺れ動く中で東京大学は世界に対して何ができるのか、ということが改めて真剣に問い直される場となりました。特に気候変動の話題は喫緊の課題として幾人もの口に上りました。こうした貴重

な提言をまとめ、東京大学が世界における「問題解決の拠点」(base of solutions)となるための努力目標として、会の最後には5つのアクション・プランが示されました。現在の体制でのプレジデント・カウンスルは今回が最後。2017年度からはUTokyo Global Advisory Boardとして、新たなメンバーも迎え、生まれ変わる予定です。東京大学、そして世界のより良い未来のため、新体制に期待しましょう。

ひょうたん島通信

大槌発! 第36回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬萊島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。



ROV、海底をゆく

広瀬雅人

大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター
・東北マリンサイエンス拠点形成事業 特任助教

大槌で地元の方や漁師さんとお話していると、「昔はひょうたん島の近くでこんな生き物が採れたんだよ」とか「この場所は昔から豊かな漁場だね」という声をよく耳にします。その度に、実際の海底の様子を見てみたいと思うのですが、深い場所では潜って見に行くこともできません。網にかかった混獲物（食えないものたち）を見ながら、海底の様子に思いを馳せるしかありませんでした。

2015年3月、沿岸センターに遠隔操作無人探査機（ROV）が納品されました。ROVは、モニターに映し出された映像を見ながら船の上からコントローラーで操作する水中探査ロボットです。水深150mまで潜ることができるこの

ロボットを使えば、これまで潜ることができなかった海底の様子を観察することができます。

実際に、これまで何度か大槌湾内や大槌沖でROVを利用した調査を行ってきました。ひょうたん島から南に延びる斜

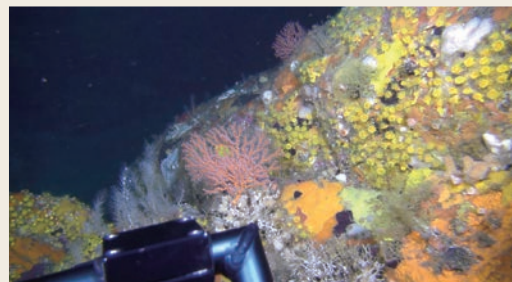


沿岸センターのROV。

面では、30年前に同じ場所で得られたものと同種のコケムシが多数生息している様子が確認されました。また、豊かな漁場として知られる大槌沖の地点では、色とりどりのサンゴの仲間やカイメンが海底を彩っている様子も確認されました。まさに、いつも地元の方々から聞いていた海底の様子をこの目で確認できた瞬間でした。

ROVで海底の様子を観察していると、様々なことがわかってきます。大槌湾口部の海底には、震災前からそこに生息していたと思われる大きな二枚貝やサンゴのような群体をつくるコケムシが確認されました。沿岸域の浅場では津波で大きな攪乱を受けた場所も多く知られていますが、こうした深い海底では当時と変わらず生息してい

ROVで撮影した大槌沖（大根）の海底。



る動物たちもいるようです。これらの殻や骨格に刻まれた年輪に沿って分析を進めれば、さらに多くのことを過去に遡って明らかにすることができるでしょう。

ROVの映像に映るのは、生物だけではありません。根とよばれる切り立った岩盤の谷間には、津波で流されたと思われる人工物や大木などが今も沈んでいます。陸上ではいよいよ復興に向けて区画整備や建物の建設が進み始めていますが、海底では震災当時の姿を残した瓦礫の傍らで、震災前から変わらず生息している生物たちが遅く暮らしているようです。今後はそのような実際の海底の生物の多様性について、地元の方々や子供たちに映像や標本を交えて伝えていきたいと考えています。

調査船「弥生のつばやき」 またもや工事のお話です



国際沿岸海洋研究センターの調査船「弥生」と申します。皆様のご支援による竣工から早2年が経ちました。私の業務は沿岸海域の調査・観測ですが、事務室のびーちゃんの後を受け、このコーナーも担当しています。

前回の第35回ひょうたん島通信においても工事のお話が出ておりましたが、ついに国際沿岸海洋研究センター研究実験棟の新営工事が始まりました。鉄筋コンクリート造地上3階で、延面積は2686.51㎡、平成29年度内に完成の予定です。新棟の場所は、現研究実験棟から直線距離で200mほど町の中心部よりです。新棟建設予定地は現在更地の状態で、新棟完成後のイメージが難しいところもありますが、どのような建物ができるか

楽しみです。周辺では道路整備や宅地造成が進められ、住宅の新築が始まっている場所もあります。

私、弥生の住処となる係船場の復旧工事も進められております。工事完成後は、同僚であるグランメユ及びチャレンジャー（どちらも船舶の名称です）との共同生活が始まることとなりますが、今から楽しみであると同時に少々緊張しています。西からの寒風吹きすさぶ洋上生活に耐え忍ぶ毎日、もう暫くの辛抱とな

りそうです。



新棟建設予定地です。大槌湾が一望できます。

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）

ワタシのオシゴト 第131回

RELAY COLUMN

物性研究所総務係長 矢口隆紀

落ち着きのあるキャンパスの中で



散らかってるデスクにて「物性犬」と。

物性研究所は、事務職員と教員、技術職員との距離が短く、とても良い連携協力体制の下で、日々の業務はもちろんですが、所内レクリエーション等も活発に行なわれています。

私自身の主な業務は、一般的な総務事務に加え、教員に係る人事業務（公募、選考委員会資料作成等）を担当しています。昨年4月に着任してから間もなく一年が経とうとしていますが、恥ずかしながら、なかなか業務を覚えられず、いつも失敗の繰り返しばかり。そんな私に辛抱強くお付き合いいただいている所内の方々に対し、反省と感謝の念を抱きながら、自分なりに日々奮闘しているつもりです。

最寄り駅から少々距離のある柏キャンパスですが、静か過ぎることのない落ち着きのある環境というのが一番の魅力だと思っています。そのキャンパス近隣に一人でもふらっと立ち寄れるような居酒屋でもあれば、さらに充実した毎日を送れるんじゃないかな、と思う今日この頃です。



頼もしい総務係員&物性犬と一緒に。

得意ワザ：あるけど恥ずかしくて言えません

自分の性格：軟弱者

次回執筆者のご指名：鈴木和仁さん

次回執筆者との関係：以前同じ職場で大変お世話になりました

次回執筆者の紹介：まさに理想の上司No.1

ききんの

明日の東大を支えるために

き

第26回

三留智人 社会連携部渉外・基金課
一般職員

「学びたい」を応援するために 修学支援事業基金のご紹介

「寄附したお金が返ってくる！」と聞くと、驚かれる方も多いのではないのでしょうか。本学への寄附には税制上の優遇措置が認められており、確定申告をすれば支払った所得税の一部が還付されるのです。ということは、トータルで見れば実は「寄附金額>実質支出」。実質支出以上の支援ができるというのは、公的な組織に寄附をすることの、1つのメリットかもしれません。

さて、その税制上の優遇措置、平成28年度の税制改正により拡充されたのをご存知ですか？ これまで認められていた「所得控除」という仕組みに加え、一部の寄附には「税額控除」という仕組みが認められることになりました。寄附をした方は、確定申告の際にどちらか有利な方式を選択することができます。還付金額を算出するための具体的な計算は複雑なのでここでは省略しますが（東大基金のHPをご覧ください！）、なかには「還付金額が今までの8倍になる」「寄附した額の約4割が還付される」という方も。これまで、「今のお小遣いで寄附はキビシイかな……」と思っていた方には朗報ですね。

この度の税制改正を受け東京大学基金では、税額控除を適用可能なプロジェクトとして「修学支援事業基金」を立ち上げました。このプロジェクトにいただいたご寄附は、経済的な理由で修学が困難な学生に対する、①入学金・授業料の免除・減免、②奨学金の支給・貸与、③留学費用の負担、④TA・RA業務に対する手当等の負担、といった事業のために活用させていただきます。意欲と能力のある学生の学習機会を守るため、サポートの輪が広がればと思っています。

なお、東京大学基金では、月々の給与から決まった金額をご寄附いただく「給与控除」という仕組みをご用意しています。月々の給与からの控除なら、計画的に続けやすいのでオススメです。現役学生の「学びたい」を応援するために、温かいご支援をよろしくお願いたします。



東京大学基金事務局（本部渉外・基金課）

TEL 03-5841-1217（内線21217）

E-mail kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細は東大基金HPへ→ utf.u-tokyo.ac.jp/

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学協創推進本部

第134回

大学発ベンチャーの起業 ～起業についての相談窓口

産学協創推進本部では、教職員・学生・ポスドクの方々を対象に本学の学術研究成果やビジネスアイデアを事業化するためのサポートを行っています。対象は本学の研究・教育成果の事業化を目指す個人もしくはスタートアップ企業等で、事業内容や開発ステージに応じて個別にアドバイスを致します。具体的にはインキュベーション施設への入居相談をはじめ、兼業申請、ライセンス契約等、その他起業前後の一連の手続き、資金調達や資本政策など様々な内容をご相談頂くことができます。起業相談は義務ではありませんが、起業に関する学内支援ツールその他、学内規則を確認するためにも、まずは産学協創推進本部へご相談頂くことをお勧め致します。詳しくは当本部の公式ウェブサイトに掲載の「産学連携と輸出管理についての東京大学教職員向けガイドブック～発明・共同研究・起業・輸出管理～(第1版)」P23以降をご参照下さい。

また当本部では起業家教育プログラムを複数実施しています。本学の学部生・院生・ポスドクを対象とした「東京大学アントレプレナー道場」((株)東京大学エッジキャピタル、東京大学TLO(株)及び東京大学協創プラットフォーム開発(株)との共催)は今年で13年目を迎え例年通り4月から開講します。また2014年からは教職員を対象とした起業家教育プログラム「EDGEプログラム(文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業)」を実施しています。起業家教育プログラム参加に興味のある方は是非、当本部のウェブをご参照下さい (<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>)。

当本部では、ベンチャー・キャピタル(VC)をはじめとする投資家や大企業等の外部機関との連携体制を強化する方向で様々な施策に取り組んでいます。例えば昨年11月から経団連と大学発ベンチャー企業育成に関し連携を開始しました。起業のベースとなる大学の技術を、企業の資本や人材によって、イノベーションの創出と事業化を促進させるプラットフォームの構築を目指しています。また昨年末には東京大学協創プラットフォーム開発(株)が投資活動を開始しました。同社は、シード・アーリー段階のベンチャー支援に関しては、民間VCが組成するファンドへの資金提供を行い、またミドル段階以降のベンチャー支援では、民間VC等との共同投資を原則とした直接投資を行っています。ベンチャー育成に係る様々な施策については次号で紹介いたします。

産学協創推進本部 www.ducr.u-tokyo.ac.jp/

あちこちそちこち 東京大学 第16回

本郷・駒場・柏以外の本学を現場の教職員が紹介

薬学系研究科附属
薬用植物園の巻

薬学系研究科准教授
折原 裕

生薬の基原植物を栽培展示



第1温室。

JR総武線新検見川駅北口を出て北へ10分ほど歩くと検見川総合運動場の南側に着きます。左に曲がり運動場沿いに西から北へ歩を進め、坂を下って上ると運動場西北端の十字路に着くので、左に曲がるとほどなく薬用植物園の正門に着きます(徒歩約25分)。

薬学系研究科附属薬用植物園は1978年に正式に薬学部附属施設として発足しました。発足の10年くらい前から圃場の整備が進められ、当時移植された薬木は樹齢50年以上となり、鬱蒼とした林を形作っています。園内には栽培圃場のほか温室も2棟あり、熱帯産の薬用植物が花を咲かせているのを見ることもできます。

毎年6月には薬学部3年生の薬用植物園見学実習が行われ、また、薬剤師研修センターの薬用植物園研修などにも協力しています。実習では、とくに薬用植物の味、香りを中心としての体験を重視しています。その中で、薬用植物に興味を持ち研究を志す学生や薬剤師が出てくれば良いと考えています。

薬用植物の花は地味なものが多く、観賞植物を主として栽培している植物園には及びませんが、よく見ると小さいながら美しいものも多くあります。植物は、温室内も含めて、四季折々に変化します。天気の良い日にふらっと訪れてみてはいかがでしょうか。春の足音はやっと聞こえてきたところですが、梅の季節も終わり、まもなくオウレンの花が咲き始めます。



1. 薬用植物園実験棟。
2. 管理棟(旧学生寮風呂場を改築)。
3. オウレン(3月)。
4. ホオノキ(5月)。

www.f.u-tokyo.ac.jp/~oriharay/index.htm

インタープリターズ・第115回 バイブル

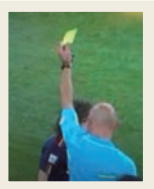
総合文化研究科教授 渡邊雄一郎
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

リスクを自ら考えていく姿勢を 育てるには何をすればいいのか

昨年の夏、海外に行った際に中東系の航空会社を初めて利用して面白い経験をした。離発着前には、どの航空会社も機内の安全の説明をビデオで流すのが常である。国内の飛行機会社もそれぞれに作成しているが、アテンダントが説明したり、ヴァーチャルな映像として説明をしたりしているが、ほとんどの人が見ていないのが実情である。この航空会社は、ヨーロッパの有名なサッカーチームのスポンサーになっているのを活かして、サッカー場に舞台を設定して、観客席でシートベルトをすること、してはいけない行為にはイエローカードを出す、非常事態の際に取るべき姿勢などを選択、観客を交えた映像を見せていた。スター選手が何人も出てくるので複数回でも見るのだろう。もう一つ、私は音楽を聞いていたのだが、アテンダントが何も言わずに耳に付けていたイヤホンを外していったのには驚いた。機内アナウンスを聞くように仕向けたのであった。

学内でも安全、倫理のために取るべき行動について、多くの冊子が作られているが、どのようにしたら多くの人の目をひきつけられるか。著名な講師が話をされる講演会、シンポジウムが開催される際でも、構内でポスターを貼り、フライヤーを配るぐらいでは目に入らない。数多く類似の紙媒体が氾濫している中では、見えたようで情報が取り込まれず、友達に誘われたり、LINE、Twitterなど間接情報には目を向ける。ぜひ目に入った情報を一瞬でいいから吟味して重要なことか、自分に関係することかなどを判断しなければならないと思う。現代社会では自分の直接体験をもとに判断してほしい。実際に黒い雲が見えても、傘を持っていくかはネットで天気予報を見てから決めたり、目の前にある事件や事故を見ながらそれをネットで確かめたりしている。

現代社会で様々なリスクを考える必要性が高まっているが、まずは自分の直接体験、過去の情報をもとに判断できる能力を磨くことは必要であろう。若い世代には嫌われても、そうした重要性を言葉にして伝える必要を感じている。そしてある程度は、模擬的に危険な事象を直接見せる必要も感じている。



サッカー試合中のイエローカードは多くの人が注目する中で、そのメッセージ性が大きい。

科学技術インタープリター養成プログラム
science-interpret.c.u-tokyo.ac.jp

蔵出し! 文書館

The University
of Tokyo
Archives



第6回

収蔵する貴重な学内資料から
140年に及ぶ東大の歴史の一部をご紹介します

学生証のはじまり

学生であることを証明するものであるとともに、証明書自動発行や図書館利用証などにも使用される学生証。東京大学の学生証のはじまりはいつだったのでしょうか。

学生証が制定されたのは、今から90年前の昭和2(1927)年4月1日のことです。学生証が制定されるまでは、写真貼付のない身分証明書や図書館の閲覧票がありました。しかし、学生以外の者の聴講や教室・図書館内で盗難が多発したため、大正15(1926)年10月12日の評議会において、写真貼付の学生票を交付し、時々これを検査することによって取り締まろうという

提案がなされました。
(『東京大学百年史資料一』p.849)

当館所蔵重要文化財指定資料「諸規定及改正案綴」(S0009/04)に、その当時本部が作成した「本学々生票制定に関する建議書(稿)」があります。図書館の事務作業の削減や偽学生の取り締まりなど、建議の趣旨やひな形を見る



↑ひな形中の「秋山常輔」なる人物は不明。なお、裏面には遵守事項や住所の記載が見られる。ことができます(上画像)。

学生証が制定された1ヶ月後の『帝国大学新聞』(第207号、昭和2年5月2日)に、「学生証のお蔭 盗難数は減少」とあるように、少しは効果があったようですが、他の帝国大学の図書館の閲覧はできず、また定期乗車券購入の際の証明は別に請求しなければならないなど課題が多いものでした。

当館には、学生証に先立つものとしての明治13年の身分証明書(F0176/01)、昭和17年の第二工学部の学生証(F0212/088(右画像))、昭和23年の第一工学部の学生証(F0159/02)を所蔵しております。現在の学生証と比べていかがでしょうか。ぜひご覧ください。(文書館事務補佐員・村上こすえ)



東京大学文書館
www.u-tokyo.ac.jp/history/index_j.html

トピックス (1月16日～)

全学ホームページの「トピックス」に掲載された情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
1月16日	本部博物館事業課	総合研究博物館小石川分館 建築博物教室第 11 回の開催	11月26日
1月17日	農学生命科学研究科・農学部	花ハス「月のほほえみ」が品種登録されました	11月17日
1月19日	本部広報課	大学間連携によるアンチ・ドーピング研究推進のためのコンソーシアムを結成	1月18日
1月19日	生産技術研究所	現場の知、市民の知を有機的に組み込んだ次世代型市民協働プラットフォームの開発	1月19日
1月23日	広報戦略本部、国際本部	東京大学ビデオ“UTokyo/Society”公開!	1月23日
1月26日	総合文化研究科・教養学部	2016 年度前期 TLP (トライリンガルプログラム) 中国語修了式	1月16日
1月30日	本部広報課	Tell The World: 研究成果のアウトリーチに様々なリソースを活用しましょう!	1月25日
1月31日	宇宙線研究所	飛騨市と宇宙線研究所が連携協力協定を締結しました	1月22日
1月31日	総合文化研究科・教養学部	本学と「スズキ・メソッド」の才能教育研究会が「脳科学的」音楽教育の研究開始を発表	1月24日
2月2日	大規模集積システム設計教育研究センター	VDEC 設立 20 周年式典が開催されました	1月20日
2月6日	医科学研究所	第 11 回研究所ネットワーク国際シンポジウム参加報告	1月26日
2月6日	工学系研究科・工学部	工学系研究科「社会連携・産学協創推進準備室」の設置	12月1日
2月8日	国際本部	ETH Zürich - 東京大学 戦略的パートナーシップシンポジウム——科学、デザイン、製造、情報——	1月19日
2月8日	政策ビジョン研究センター	Five University Conference “Internationalism in Retreat? Future of Cooperation in the Asia-Pacific”	12月2日
2月9日	理学系研究科・理学部	大学院理学系研究科附属臨海実験所創立 130 周年記念シンポジウム & 三浦真珠プロジェクトキックオフシンポジウムを開催	1月28日
2月9日	国際本部	第 2 回ケンブリッジ大学 - 東京大学合同シンポジウム	1月31日

お知らせ

全学ホームページの「お知らせ」等でご案内しているお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
1月17日	本部広報課	退職教員の最終講義 (2 月開催分)	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1304_00033.html
2月9日	大学総合教育研究センター	無料オンライン講座 English Academia 開講!	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0308_00012.html



CLOSE UP

VDEC設立20周年式典を開催しました

(大規模集積システム設計教育研究センター)



挨拶を述べる五神総長。当日は積雪の荒天が予報される中、200名の臨席を賜りました。資料などはVDEC (VLSI Design and Education Center) のWEBページで公開しています。
www.vdec.u-tokyo.ac.jp

1月20日、武田先端知ビルにて設立20周年記念式典を開催しました。冒頭に五神真総長がセンター設立の経緯と先端電子デバイスシステム研究発展への期待を述べる挨拶を行い、文部科学省、経済産業省、(株) アドバンテスト、富士通研究所の御来賓より祝辞を賜りました。続いて浅田邦博センター長が20周年の総括を行い、社会が必要とする技術者の育成と研究の推進を一層図る決意を表明しました。

式典では、研究が企業化につながった例として大阪大学の尾上孝雄先生と静岡大学の川人祥二先生、超短期間研究開発の成功例として Santec (株) の諫本圭史様に活動報告をいた

だきました。東北大学の犬野英男先生、(株) ExaScalerの齊藤元章様の特別講演の後、九州大学の安浦寛人先生をモデレーターに、「VDECの今度の活動への期待と課題」がテーマの白熱したパネルディスカッションを行いました。

VDECは全国共同利用センターとして発足し、「武田先端知ビル」スーパークリーンルームを工学系研究科とともに運営する中で、微小電気機械システムのオープン試作利用環境を整備し、LSIの機能性能のテスト研究として寄付研究部門を拡充してきました。今後も集積回路や微細素子の分野で、思い立ってから実現までを最短距離で結ぶ全国共同拠点として頑張る所存です。

CLOSE UP



記者会見で手を重ねる4大学の学長（左から日本医科大学 弦間学長、東京大学 五神総長、筑波大学 永田学長、東北大学 里見総長）。

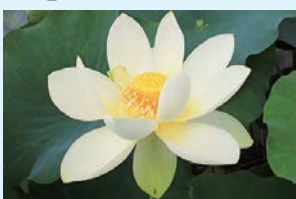
アンチ・ドーピング研究を推進するコンソーシアムを結成 （本部広報課）

このたび、東京大学・東北大学・筑波大学・日本医科大学の4大学は、アンチ・ドーピング研究のためのコンソーシアムを結成しました。今後、アンチ・ドーピングに関する様々な分野（自然科学領域・社会科学領域）において相互に緊密な連携を図り、関連研究を推進します。

スポーツにおけるドーピングの撲滅に向けては様々な取組みが行われていますが、近年はドーピングが巧妙化し、最先端医学研究の成果や微量分析等の技術を活用した効果的かつ効率的なドーピング検出手法やアスリートへの負荷が少ない検査の開発も求められているところ。

コンソーシアム結成を記念し、1月18日、日本橋ライフサイエンスハブにて記念式典を開催しました。4学長の挨拶の後、鈴木大地スポーツ庁長官、遠藤利明衆議院議員、馳浩衆議院議員ほか多くのご来賓から期待が述べられました。式典後にはシンポジウムを開催。鈴木秀典日本アンチ・ドーピング機構会長の基調講演の後、コンソーシアムを構成する4大学を代表して、南学正臣医学系研究科教授、楠原洋之薬学系研究科教授、山本雅之東北大学医学系研究科教授、清水 諭 筑波大学体育系教授、大久保善朗日本医科大学大学院教授が講演を行いました。

CLOSE UP



アメリカ黄蓮と大瀬錦の交配で誕生。

花ハス「月のほほえみ」が東大名で品種登録 （農学生命科学研究科・農学部）

種苗法第18条の規定に基づき、11月17日（農林水産省告示第2291号）に本研究科附属生態調和農学機構の前身の一つである緑地植物実験所で育成された花ハス「月のほほえみ」が品種登録されました。（品種登録番号：25521）

生態調和農学機構発足時の2010年に出願し、7年かかったの登録となりました。これで、国

立大学法人東京大学の名称での登録品種は「緑地美人」との2種になります。

「月のほほえみ」は、花びらがクリーム色で、比較的大きな花を高い位置につけるのが特徴で、花の色が穏やかな月の光のようであることが名の由来です。ハス見本園は今年も7月に一般公開を予定しています。

CLOSE UP



協定を交わした都竹市長（左）と梶田所長。

飛騨市と宇宙線研究所が連携協力協定を締結 （宇宙線研究所）

飛騨市と宇宙線研究所の連携協力協定締結式が、1月22日、岐阜県飛騨市文化交流センターで行われました。

スーパーカミオカンデやKAGRAなど、宇宙線研究所の主要な実験施設が岐阜県飛騨市に設置されていることから、これまでも飛騨市や市民の方のご協力により研究を進めて参りました。このたびは学術研究の発展、人材の育成、地域社会の発展などを目的とし、さらなる協力関係を築くため、協定が取り交わされました。都竹

淳也 飛騨市長と梶田隆章 宇宙線研究所長が相互の発展を願って協定書に署名しました。

その後、梶田隆章所長の「神岡地下での科学研究」と題する特別講演会が行われ、約500名の方にご参加いただきました。梶田所長は神岡での研究を紹介し「飛騨市の方々のおかげで研究を進めることができました。これからも応援よろしくお願いします」と地元の人たちに感謝の言葉を述べました。会場からは温かい拍手が起こっていました。

CLOSE UP



意気上がる参加者の皆さん。

三崎臨海実験所130周年と三浦真珠のシンポジウムを開催 （理学系研究科）

1月28日、神奈川県三浦市の市民ホールで「東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所創立130周年記念シンポジウム & 三浦真珠プロジェクトキックオフシンポジウム」を開催しました。プロジェクトは三浦真珠養殖の復活等を目的に2013年に発足。三浦市、(株)ミキモト、(株)京急油壺マリンパーク、みうら漁業協同組合、臨海実験所等の連携で進めてきましたが、今後は本学の関連部局も参画し、神奈川県、京浜急行電鉄(株)、富士通(株)、県立海洋科学高等学校とも共同して活動を拡げることになったものです。

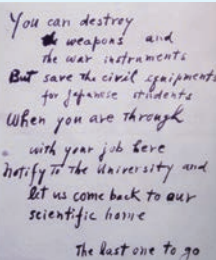
五神真総長、吉田英男三浦市長の冒頭挨拶に続いて、ミキモトの吉田均代表取締役社長、京浜急行電鉄の原田一之取締役社長、神奈川県黒岩祐治知事からご挨拶を、また、小泉次郎

衆議院議員からもメッセージをいただきました。

第一部では実験所の赤坂甲治所長から「三浦の海と東京大学臨海実験所」と題する講演がありました。第二部では、一般社団法人みうら学・海洋教育研究所の渋谷総一事務局長から三浦真珠を活用した海洋教育の紹介があった後、三浦市立名向小学校の児童が真珠の浜揚げや核入れの学習体験を発表。続いて、京急油壺マリンパークの金子和久総務部長から、マリンパークで行われている三浦真珠プロジェクトのお話がありました。第三部では、五神総長、吉田市長、小泉議員、赤坂所長に加え、編集者・評論家の山田五郎氏も交えてのパネルディスカッションが行われ、「奇跡の海」と呼ばれる三浦の海の素晴らしさや今後のプロジェクトの展開について、活発な議論が繰り広げられました。

←臨海実験所の展示より。

1945年、米軍の接收に際し、團勝磨博士が残した置手紙（写し）。軍事施設を壊すのは自由だが日本人研究者が戻るときのために他の実験施設は残してほしい……と切実な願いが記されています。



スカシカシパン（展示より）



タコノマクラ（展示より）





総合大学の強み

最近、他学部の学生あるいは他研究科の大学院生が聴講に来る機会が増えたように感じる。複数の学問領域に興味を抱く若者が増えているのではないか。講義内容に関する彼らの質問やコメントは、私にとって新鮮な刺激となっている。

学術研究の分野では、異なる学問分野で生まれる研究成果や新しい発想が、他分野での学術研究の革新と進化の原動力となる場合が多くみられる。分野を越えた学問の融合も、新しいものを生み出す可能性を秘めている。そうであるならば、若い頭脳が柔軟である時代に複数の学問領域で学ぶ機会を増やすことには意義がある。総合大学である東京大学にはそのような機会を提供する潜在能力が備わっているように思う。その強みを生かさない手はない。

かつて、「経済学とインド哲学を学びたい」という希望を持つ学生と話をすることがあった。しかし、彼は残念ながら、2つの異なる学問分野の演習を同時に履修することはできなかった。そのような制度が整備されていなかったからである。もちろん、他学部聴講という制度はある。教員の了解を取って演習に

非公式に「もぐりこむ」ことも可能であったろう。だが、その心理的ハードルは高い。このハードルを下げて、他学部の演習に正式に参加する道を開いても良いのではないだろうか。

進学選択の際に、どの学部学科に進むことを希望するのか悩む学生が多いと聞く。所属する部局とは異なる学部学科の講義や演習を履修する自由が拡大すれば、こうした悩みの少なくとも一部は軽減されるのではないか。私が所属する研究科には「経済学の哲学的基礎づけ」に関する研究を行っている大学院生がいる。彼は、他の研究科が提供するサービスの一部を利用してきたが、学際的研究教育を支援する制度にはまだまだ改善の余地があると思う。異なる分野の最先端の研究成果を同時に学ぶことができるという東京大学の強みを生かす手立てを考えるべきではないだろうか。

柴田徳太郎
(経済学研究科)